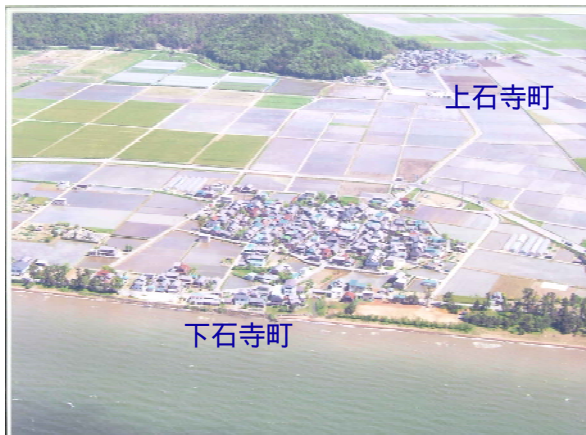


平成19年度豊かなむらづくり全国表彰事業

近畿農政局長賞

いしでら 石寺振興会（滋賀県彦根市）



石寺地区の全景

（概要）

（1）むらづくりの動機・背景

昭和43年県営干拓事業で土地基盤整備がなされたが、平成4年一級河川愛知川の災害復旧事業に伴い多量に排出された残土を受け入れ、干拓地の嵩上げを行い再整備することによって、苦勞の多い干拓地の劣悪条件から脱却し生産性の高い大規模経営の可能な大区画の汎用水田を造成した。基盤整備事業を契機として、生活環境の整備にも取り組み、誰もが住んでみたくなるような美しい豊かなむらづくりを推進した。

（2）むらづくりの内容

石寺振興会を推進母体として、住民合意の基に基盤整備事業をすすめ、特産物の育成、集落営農による担い手の育成、生態系保全型農業を推進してきた。また、生活環境整備を通じて地域の自然、文化を次世代に伝承するべく多様な取組が行われている。

特産物の育成

収益性の高い地域特産物として、彦根梨の生産拡大を図り、地域の担い手の育成、女性の参画を図るとともに、光センサー選果機の新たな導入により、消費者の安全・安心・高品質を求めるニーズに対応する生産体制を確立した。

集落営農の組織化

農業者の高齢化と担い手不足に対応するため、集落営農の組織化をすすめ、大区画ほ場に適する高性能機械の共同利用により集落ぐるみ農業が展開されている。

環境こだわり農業への取組

フナやコイが水田と琵琶湖を行き来していたかつての田園環境を回復し、人と生き物が

共生できる農村を目指す「魚のゆりかご水田米」や、資源循環型稲作による「酒粕米」を生産し、環境こだわり農産物として販売の促進強化と作付けの拡大を行っている。

地元小学生の環境・体験学習

なし園やこだわり水田において、地元の小学生の環境・体験学習が行われ、子供たちの健全な育成に貢献している。

集落環境整備

当該地区は、琵琶湖に面した美しい景勝地であり、集落内のクリークの整備や、また、嵩上げ地区と荒神山が隣接していることから、里山のリニューアル事業にも取り組んでいる。

都市住民との交流活動

県立大生との連携により、神社の春季例大祭にフィールドワークとして参加し、地域文化の伝承活動が実施されている。また、非農用地設定区画の活用による都市住民との交流の拠点作りの検討が進められている。



大区画水田(1 区画 1.5 ～ 2.0ha)



造園された梨園



魚のゆりかご水田水路における魚道



稲村神社大祭（学生との共同活動）